

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)学研コファン豊橋大手町	階数	地上6F
建設地	愛知県豊橋市	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	64人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2014年7月8日
敷地面積	818㎡	作成者	佐々木 愛美
建築面積	541㎡	確認日	2014年7月10日
延床面積	2,804㎡	確認者	藤田 吉久

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.0 ★★★★★

標準計算
①参照値
②建築物の取組み
③上記+②以外の
④上記+

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.9)	Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.5)	Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 2.7)
音環境: 2.9, 温熱環境: 2.6, 光・視環境: 3.4, 空気質環境: 2.9	機能性: 4.0, 耐用性: 3.1, 対応性: 3.1	生物環境: 2.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.9

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.1)	LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 2.8)	LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 2.8)
建物外皮の: 4.0, 自然エネ: 2.9, 設備システ: 3.0, 効率的: 2.5	水資源: 3.4, 非再生材料の: 2.4, 汚染物質: 3.6	地球温暖化: 3.1, 地域環境: 2.6, 周辺環境: 2.7

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 40.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出
④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引
【仮称】学研ココファン豊橋大手町

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
2.9 0.15 2.9 1.00 2.9								
1.1 騒音 豊橋市条例を満たす 3.0 0.41 4.0 0.41								
1.2 遮音 T-2サッシュを採用 3.8 0.41 2.7 0.41								
1 開口部遮音性能 5.0 0.44 5.0 0.30								
2 界壁遮音性能 3.0 0.56 2.0 0.30								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源) 3.0 - 1.0 0.20								
4 界床遮音性能(重量衝撃源) 3.0 - 2.0 0.20								
1.3 吸音 1.0 0.19 1.0 0.19								
2 温熱環境								
2.7 0.35 2.6 1.00 2.6								
2.1 室温制御 3.3 0.50 3.0 0.50								
1 室温 3.0 0.39 3.0 0.58								
2 外皮性能 3.0 0.26 3.0 0.42								
3 ゾーン別制御性 4.0 0.35 - -								
2.2 湿度制御 1.0 0.20 1.0 0.20								
2.3 空調方式 3.0 0.30 3.0 0.30								
3 光・視環境								
3.3 0.25 3.6 1.00 3.4								
3.1 昼光利用 4.2 0.30 4.2 0.30								
1 昼光率 住戸(18㎡):1.3%, オナー様住戸:4.1%, 待合室:12.4%, 診察室: 5.0 0.60 5.0 0.59								
2 方位別開口 窓が南面、東面に存在 3.0 - 5.0 0.02								
3 昼光利用設備 3.0 0.40 3.0 0.39								
3.2 グレア対策 ブラインドまたはカーテンと庇が存在 3.0 0.30 4.0 0.30								
1 昼光制御 3.0 1.00 4.0 1.00								
3.3 照度 3.0 0.15 3.0 0.15								
3.4 照明制御 3.0 0.25 3.0 0.25								
4 空気質環境								
3.0 0.25 2.7 1.00 2.9								
4.1 発生源対策 3.0 0.51 3.0 0.63								
1 化学汚染物質 3.0 1.00 3.0 1.00								
2 アスベスト対策 - - - -								
4.2 換気 2.0 0.31 2.3 0.38								
1 換気量 3.0 0.50 3.0 0.33								
2 自然換気性能 4.0 - 3.0 0.33								
3 取り入れ外気への配慮 1.0 0.50 1.0 0.33								
4.3 運用管理 5.0 0.19 - -								
1 CO ₂ の監視 3.0 - - -								
2 喫煙の制御 5.0 1.00 - -								
Q2 サービス性能								
- 0.30 - - 3.5								
1 機能性								
3.7 0.40 4.5 1.00 4.0								
1.1 機能性・使いやすさ 3.0 0.40 4.8 0.60								
1 広さ・収納性 個室18㎡以上 4.0 - 5.0 0.93								
2 高度情報通信設備対応 4.0 - 3.0 0.07								
3 バリアフリー計画 3.0 1.00 - -								
1.2 心理性・快適性 4.0 0.30 4.0 0.40								
1 広さ感・景観 天井高2.5m 4.0 - 4.0 0.50								
2 リフレッシュスペース 5.0 - - -								
3 内装計画 コンセプトに基づいた内装計画をし、照明についても検討 4.0 1.00 4.0 0.50								
1.3 維持管理 4.5 0.30 - -								
1 維持管理に配慮した設計 防汚性の高い内装材の使用 4.0 0.50 - -								
2 維持管理用機能の確保 清掃が行いやすいよう、倉庫や各階に汚物流し等を計画 5.0 0.50 - -								
3 衛生管理業務 - - - -								
2 耐用性・信頼性								
3.1 0.31 - - 3.1								
2.1 耐震・免震 3.0 0.48 - -								
1 耐震性 3.0 0.80 - -								
2 免震・制振性能 3.0 0.20 - -								
2.2 部品・部材の耐用年数 3.4 0.33 - -								
1 躯体材料の耐用年数 3.0 0.23 - -								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.0 0.23 - -								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 4.0 0.09 - -								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔 4.0 0.08 - -								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔 5.0 0.15 - -								
6 主要設備機器の更新必要間隔 4.0 0.23 - -								
2.4 信頼性 3.0 0.19 - -								
1 空調・換気設備 3.0 0.20 - -								
2 給排水・衛生設備 3.0 0.20 - -								
3 電気設備 3.0 0.20 - -								
4 機械・配管支持方法 3.0 0.20 - -								
5 通信・情報設備 3.0 0.20 - -								
3 対応性・更新性								
3.0 0.29 3.2 1.00 3.1								
3.1 空間のゆとり 2.0 0.29 1.4 0.50								
1 階高のゆとり 2.0 0.60 1.0 0.60								
2 空間の形状・自由さ 2.0 0.40 2.0 0.40								
3.2 荷重のゆとり 4.0 0.29 5.0 0.50								
居室最小床荷重:4,100N/㎡, 共用部最小床荷重:4,000N/㎡								
3.3 設備の更新性 3.1 0.42 - -								
1 空調配管の更新性 3.0 0.17 - -								
2 給排水管の更新性 4.0 0.17 - -								
3 電気配線の更新性 3.0 0.11 - -								
4 通信配線の更新性 3.0 0.11 - -								
5 設備機器の更新性 3.0 0.22 - -								
6 バックアップスペースの確保 3.0 0.22 - -								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		施設内にディスプレイを設けることで、地域の高齢者の活動を促	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			非住宅部: BPI _m =0.55、住宅部: 外皮等級4	4.0	0.31	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				2.9	0.20	-	-	2.9
3 設備システムの高効率化				3.0	0.31	-	-	3.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)				3.0	0.93	-	-	
集合住宅の評価(3c)			非住宅部: BEI _m =0.95、住宅部: BEI=1.0	4.0	0.07	-	-	
4 効率的運用				2.5	0.19	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	0.93	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				3.0	0.07	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓、省水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.69	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.31	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.63	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWPが低い製品を採用	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	①		ライフサイクルCO2概算値: 95%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮				2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		駐車・駐輪スペース、管理・荷捌用駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	独自			3.0	0.50	-	-	
2 振動	独自			-	-	-	-	
3 悪臭				3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				5.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)学研コソファン豊橋大手町

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:40.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)学研ココファン豊橋

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 『和』をコンセプトに、周辺地域の景観に馴染むような色彩計画の実施。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。①日射遮蔽及び断熱性能。②バルコニーの庇による昼光制御。③F★★★★建材を仕様。④分煙に伴う喫煙室の設置。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。①内装材、換気ダクト、給排水管に長寿命仕様を採用。②CGパースによる検討の実施。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。①中高木やバルコニー庇による日影形成。②夜間照明の設置。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。①建物熱負荷を抑制。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。①DOP=0かつGWP>50の断熱材の採用。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。①駐車・駐輪場の確保。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。